

放射性固体廃棄物等の想定保管量の 積立ての内訳について

2019.12.23

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

瓦礫類について

- 想定保管量の算出方法は、以下により算出
 (2017年度の保管実績) + (2018～2020年度の発生予測量)
 発生予測量：3年間で計画されている作業での発生量を主管Gより集計し、
 固体廃棄物管理Gで確認
- 各年度における想定発生量は、以下に記載
 2018年度：90,200m³、2019年度：40,200m³、2020年度：9,400m³
- 各年度における想定発生量の多い作業について、次ページ以降に記載

表1 想定保管量の内訳 (瓦礫類)

線量区分 (mSv/h)	0.1	1	30	>30	合計
2017年度 (実績)	171,300	35,600	21,900	8,600	237,400
2018年度累積	229,400	60,100	28,300	9,800	327,600
2019年度累積	256,500	67,400	32,700	11,100	367,800
2020年度累積	261,900	69,700	34,300	11,300	377,200

+90,200m³

+40,200m³

+9,400m³

端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

瓦礫類について

- 各年度における発生量の多い作業は以下の通り
- **タンク関連工事**や**1～4号機関連工事**による発生が多い

表2 想定保管量の内訳（瓦礫類）

単位：m³

	0.1mSv/h		1mSv/h		30mSv/h		> 30mSv/h	
	件名	物量	件名	物量	件名	物量	件名	物量
2018 年度	フランジタンクの減容作業	15,100	事務本館ゲートモニタ設置に伴う除却工事	5,200	Eエリアタンク関連工事	1,500	1号機オペフロ瓦礫撤去工事	600
	敷地造成工事	5,000	H1, 2エリアタンク関連工事	3,100	H1, 2エリアタンク関連工事	1,200	1～4号機周辺構内整備工事	200
	構内不明物品回収	3,300	H6エリアタンク関連工事	1,500	2号機R/B内の干渉物撤去工事	400	サブドレン関連工事	100
2018年度想定保管量								90,200

瓦礫類について



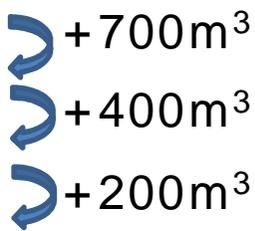
		0.1mSv/h		1mSv/h		30mSv/h		> 30mSv/h	
		件名	物量	件名	物量	件名	物量	件名	物量
2019 年度		フランジタンクの減容作業	9,800	水処理設備関連工事	800	Eエリアタンク関連工事	900	1号機オペフロ瓦礫撤去工事	820
		既設企業棟復旧工事	6,400	G5エリアタンク関連工事	800	1号機オペフロ瓦礫撤去工事	400	Eエリアタンク関連工事	100
		Eエリアタンク関連工事	3,200	1～4号機周辺構内整備工事	500	H9・H9西エリアタンク関連工事	400	H1,2エリアタンク関連工事	100
	2019年度想定保管量								
2020 年度		水処理設備関連工事	900	1～4号機周辺構内整備工事	500	2号機SFP内使用済み燃料取り出し関連工事	700	1号機オペフロ瓦礫撤去工事	100
		構内一般廃棄物回収	800	サブドレン復旧工事	300	3号機燃料取扱設備点検工事	200	水処理設備弁類点検委託	50
		1～4号機周辺構内整備工事	400	使用済保護衣等保管業務	200	2号機燃料取扱設備点検工事	200	3号機SFP内使用済み燃料取り出し関連工事	30
	2020年度想定保管量								

伐採木について

- 想定保管量の算出方法は、以下により算出
(2017年度の保管実績) + (2018～2020年度の発生予測量)
- 各年度における想定発生量は、以下の通り
2018年度：700m³、2019年度：400m³、2020年度：200m³

表3 想定保管量の内訳（伐採木） 単位：m³

	幹根	枝葉	合計
2017年度（実績）	96,600	37,400	134,000
2018年度累積	96,900	37,800	134,700
2019年度累積	97,100	38,000	135,100
2020年度累積	97,200	38,100	135,300



端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

- 構内の除草・除伐業務における発生量が毎年約200m³計上
- その他の件名は、100m³以下の物量の件名が多数（敷地造成工事等）

使用済保護衣等について

- 想定保管量の算出方法は、以下により算出
 $(2017\text{年度の保管実績}) + (2018 \sim 2020\text{年度の発生予測量}) - (\text{焼却量})$
 発生量予測量：過去の入域者数の実績をもとに算出
 焼却量：焼却炉の運転計画をもとに算出
- 各年度における想定発生量は、以下の通り
 2018年度：-15,500m³、2019年度：-8,100m³、2020年度：-8,400m³

表4 想定保管量の内訳（使用済保護衣等）単位：m³

	使用済保護衣等		
2017年度（実績）	59,700		
2018年度累積	44,200		- 15,500m ³
2019年度累積	36,100		- 8,100m ³
2020年度累積	27,700		- 8,400m ³

端数処理で100m³未満を四捨五入している。

- 2018年度は、カバーオールを中心に焼却処理を実施予定
- 2019年度以降は、カバーオール以外のもの（ゴム手袋等）も合わせて焼却予定のため、焼却物量は減少する見込み

放射性廃棄物について

- 想定保管量の算出方法は、以下により算出
 (2017年度の保管実績) + (2018 ~ 2020年度の発生予測量)
- 各年度における想定発生量は、
 2018年度：400本、2019年度：1,500本、2020年度：8,200本

表5 想定保管量の内訳（放射性廃棄物）単位：本

	雑固体廃棄物焼却設備 より発生する焼却灰 ¹	雑固体廃棄物焼却設備よ り発生する焼却灰以外の 放射性廃棄物	合計 ²	
2017年度（実績）	800	185,800	186,600	+ 400本
2018年度累積	1,200	185,800	187,000	+ 1,500本
2019年度累積	2,700	185,800	188,500	+ 8,200本
2020年度累積	10,900	185,800	196,700	

1：大型機器除染設備から発生するプラスチック材と増設雑固体廃棄物焼却設備から発生する焼却灰を含む
 2：端数処理で100本未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

- 2018年度および2019年度は、保護衣等を焼却した焼却灰が発生予定
- 2020年度は、増設雑固体廃棄物焼却設備が運用開始予定のため、
 焼却灰の発生量が増加する予定